

委員会の動き

(2023年12月～2024年2月)

運営会議

委員長 東野 雅彦



本期間中では12月5日、1月30日、3月7日に運営会議を対面とWebの併用で開催した。12月と1月の会議では2023年度の各委員会活動の総括を各委員会委員長に確認頂いた。30周年記念事業は2024年度に跨り行われる。12月の会議では23年に実施した事項について記念フォーラム等を軸に予定通り実施された事を確認した。1月と3月の会議では24年に実施予定の記念史発行事業と見学会の予定を確認した。一方、本年1月に発生した能登半島地震に関しては、免震構造協会として調査団を派遣し、能登半島とその周辺地域にある免震構造建物の性能発揮状況を調査した。調査概要について、1月と3月の会議において北村専務理事から説明があった。4月に報告会が予定されている。3月の会議においては24年度の各委員会での実施事項と予算について議論を行った。また、4月には可見長英氏の記念講演会が予定されており、実施内容の確認を行った。

技術委員会

委員長 高山 峯夫



今年は元日に能登半島地震が発生しましたが、阪神・淡路大震災(1995年)から29年、福岡県西方沖地震(2005年)から19年、東日本大震災(2011年)から13年、熊本地震(2016年)から8年が経過します。来年は、阪神・淡路大震災から30年、福岡県西方沖地震から20年の節目の年となります。これまでの地震では免震構造はその性能を発揮しており、こうした機会をとらえて、社会に免震技術の発信ができればと思います。

先日、国連ハビタット福岡本部(アジア太平洋担当)の依頼で、イランから来られた技術者に免震構造の講義をするとともに、本学の免震病院などの施設の見学なども行いました。イランでは国内で免震病院の建設を進めていく計画があるそうです。日本の免震技術や経験を海外で活用してもらう機会になればと思っています。

免震設計部会

委員長 藤森 智



設計小委員会では、接合部指針と対津波設計マニュアルに関する講習会を12月6日に開催した。開催後の質疑対応を含め、今後の改訂内容やスケジュールについて議論を行っている。入力地震動小委員会では、トルコ南部地震や令和6年能登半島地震に関する強振動や地震被害についての報告がなされている。また設計支援ソフト小委員会では、パッシブ・アクティブ併用免震のエクセルツールの開発を継続している。

●設計小委員会

委員長 中川 理



「免震部材の接合部・取付け躯体の設計指針」および「免震建物における対津波構造設計マニュアル」に関わる内容を主テーマとして活動している。「免震部材の接合部・取付け躯体の設計指針」については、建築学会の各種合成指針の改定に伴う対応や、その他の新たな知見について協議を行い、年度末の改定を目指している。「免震建物における対津波構造設計マニュアル」については、新たな知見や中間層免震などに対する考えなども今後は示していく方向で考えている。なお、免震部材の接合部の設計については、様々な意見もよせられており設計者によっても考えは異なるが、免震建物が限界性能に達する前に接合部が先行して破損することがないように、従来どおりの安全確保に対する考えは守りつつ協議を行っている。

●入力地震動小委員会

委員長 久田 嘉章



2024年1月9日に第138回の小委員会を開催した。今後の活動計画の確認を行った後、2024年元日に発生した能登半島地震の震源特性や観測された強震動、被害調査などに関する情報共有を行った。田中(裕)委員より断層震源モデルや地盤増幅特性、境幹事より距離減衰特性や強震波形の特徴、小穴委員より地震・地震動の特徴などの報告があった。

●設計支援ソフト小委員会

委員長 會田 裕昌



パッシブ・アクティブ併用免震のExcelツール開発と免震建築物の耐風設計指針の付5免震層の簡易風応答評価方法の計算Excelを2023年仕様に改良している

耐風設計部会

委員長 吉江 慶祐



今後の活動テーマに据えた、1.時刻歴風応答解析のガイドライン、2.疲労評価のための風の継続時間の評価方法、3.免震部材の対風性能検証の標準項目の整理と提示、4.制振構造への展開 の4つのテーマの関連情報の収集と議論を行い、アクションプランの検討を進めている。

施工部会

委員長 淵本 正樹

免震構造施工標準の改訂（2025年版）のため、新メンバーを加えた部会を開催し、改訂ポイントを確認した上で、目次案（全体構成）を決定した。各メンバーに担当部分を割り当て、改訂原稿の作成を開始している。2024年7月末までに第1次原稿の作成を完了させる予定。

免震部材部会

委員長 高山 峯夫



免震部材部会の今年度の主な活動として、免震部材接合部標準化WGを設置し、取付部の標準化について検討している。標準案を作成するために、設計条件や長ナットとベースプレートのディテールなどの議論を行っている。

制振構造部会

委員長 辻 泰一

●制振評価小委員会

委員長 佐藤 大樹



12月12日、1月15日および2月14日に制振評価小委員会が開催され、本小委員会の下に設置した各WG（制振設計、制振部材解析法、制振構造解析・設計例、制振実験・観測、制振普及）主査から「パッシブ制振構造設計・施工マニュアル」の改訂作業の進捗について説明があった。改定作業も最終段階であり制振評価小委員会内での査読を実施し修正が完了している。

●制振部材品質基準小委員会

委員長 辻 泰一



5月末の「パッシブ制振構造 設計・施工マニュアル」第4版刊行に向け、改訂作業の最終段階にある。刊行は本編・別冊の2部構成となるが、当小委員会担当の原稿作成・小委員会内査読を終了し、3月より制振評価小委員会と協働にて全体査読・校正を実施する。また、刊行と併行してWeb講習会開催を計画しており、今後は開催準備にも注力する。（小委員会Web開催：12/11（14名）・1/29（15名））

防耐火部会

委員長 池田 憲一



防耐火評定部会にて「耐火構造用性能担保温度並びに共通加熱試験体適合確認済み免震材料一覧」への追加申請に対する審査が行われ、結果が防耐火部会に報告された。審査基準は長期間改訂されておらず、新製品に対応できない部分も発生しているため、防耐火部会に「基準改定WG」を設置し対応することとした。

普及委員会

委員長 前林 和彦



免震建築を広く一般へPRする手段の一つとして、2023年に（一社）日本病院会の雑誌にイラスト入りの広告を掲載した（全6回）。10月に厚生労働省が全国の病院の耐震化率（免震構造採用含む）の調査結

果を公表したこと等を踏まえて2024年も同雑誌への掲載を継続することを決定した。その後、1月に発生した能登半島地震での被災状況も勘案し、全6回の広告を過去の被害地震と免震病院が果たした実績を紹介するシリーズで掲載することにして準備を進めた。

教育普及部会

委員長 谷沢 弘容



『わかりやすい免震構造の設計』講習会として(初級編)を2023/12/25(月)～2024/1/25(木)にオンデマンド形式で(中級編)を2024/2/21(水)にオンラインライブ形式でおこなった。

出版部会

委員長 千馬 一哉



出版部会の全体会議を2023年12月20日に対面・WEBで行った。全体会議では、2024年1月末発行の会誌123号の進捗状況を確認し、2024年4月末に発行予定の会誌124号の掲載案件の議論を行った。また、会誌では、協会30周年記念事業の速報を、各イベントの開催後に掲載している。そして、2024年10月発行の会誌126号を、30周年記念事業特集号とし、これまでに速報で掲載した記事を、あらためて校正して編集する。

免震建築の基本がわかる本(新しいタイトル:「わかる!免震建築」～ここから広がる安全・安心～)の改定WGを2023年12月20日に開催し修正内容を確認した。そして、写真等の許諾確認作業を終えて、の2024年2月末に発行に漕ぎつけた。可児さん、河野さん、北村さん、執筆者の皆さんそして編集WGの皆さん、ご協力ありがとうございました。

会誌への掲載案件を募集しています。免震構造、制振構造の実施例、ぜひ事務局にお寄せください。コーヒープレイクの原稿も募集しています。コーヒープレイクは、肩の力を抜いて、個々人の好みや趣味などについて自由に語っていただく企画です。ぜひご協力お願いします。

社会環境部会

委員長 人見 泰義



地球環境宣言(案)を作成し、4月にホームページに掲載予定である。今後は、宣言に示された内容を実行するために、LCAでの免震の優位性が示せるような指標について資料を整備して普及に努める予定です。

ホームページ検討部会

委員長 磯部 共伸



検討部会を毎月のペースで開催しています。年明けより英語版ホームページの製作を開始しました。英語版HPならではの新規コンテンツも計画しており、総会でのお披露目を目標に鋭意活動しています。日本語版HPの充実も図っております。

国際委員会/ISOTC98「構造物の設計の基本」への提案委員会

委員長 齊藤 大樹



1月19日に国際委員会を開催し、3月8日の30周年記念事業の国際シンポジウムの準備状況の確認を行った。世界の免震構造の現状をまとめた特集号については、委員で分担して原稿を確認し、必要に応じて執筆者の了解のもとで修正を行った。また、トルコ免震協会から、日本を訪問して免震建物を視察したい旨の依頼があったが、1月1日に発生した能登半島地震の被害調査や3月の国際シンポジウム開催などで忙しいため、次年度に対応することになった。免震構造のISO規格については、次年度の早い時期にWGを開催することになった。

免震・制振構造技術の海外展開検討部会

委員長 高山 峯夫



国交省の国際展開事業への助成を受けて、これまで8年間続けてきた海外セミナーを、2023年度は見送った。トルコ免震協会とJSSIがMOUを締結したこともあり、2024年度はトルコを対象に助成事業を申請しようと考え準備をしている。

資格制度委員会

委員長 古橋 剛



資格制度委員会（運営幹事会及び6部会（2資格の試験、審査、更新の部会）で構成）は、当協会が認定する「免震部建築施工管理技術者」及び「免震建物点検技術者」の資格に関わる講習・試験及び更新講習（毎年度計4回）の実施、及びその合否判定の事業を担当している。2000年に発足した当協会の資格制度の資格保有者数は2023年3月現在、施工管理技術者6,530名、点検技術者2,717名となっている。

2023年度の点検技術者講習・試験はIBT試験を1月21日（日）に実施した。受験者は187名、欠席者6名、失格者4名であった。2月1日の幹事会で合否判定を行い、合格者179名、不合格者8名、合格率96%であった。2月上旬に合否発表を行っている。これにて資格制度の2023年度のイベントは終了し、2024年度の計画作業に入っている。

当協会の資格制度は2024年度も、講習試験はオンデマンド講習+IBT試験、更新講習会はeラーニングを予定している。

- ・施工講習・試験は申し込み開始が4月、オンデマンド講習が6月から7月、IBT試験が7月28日（日）
- ・点検講習・試験は申し込み開始が9月、オンデマンド講習が12月から1月、IBT試験が1月12日（日）
- ・施工更新講習は申し込み開始が6月、eラーニング受講が10月初旬、
- ・点検更新講習は申し込み開始が7月、eラーニング受講が11月中旬

に予定している。試験、講習の詳細は決定次第、協会HPで公開していくので参照していただきたい。

免震建物普及促進委員会

委員長 早部 安弘

新設計法検討部会

委員長 早部 安弘



2024年1月17日に第7回部会を開催した。簡易設計法の確立を目指して、現在は上部構造の周期と免震

層の面圧をパラメータとした2質点モデルによる動的応答性状の分析及び整理を行っている。各委員より提供していただいた約150波の検討用告示波を用いて、免震装置は高減衰積層ゴム支承、鉛プラグ入り積層ゴム支承を対象にしている。委員の協力のもとに、徐々に成果がまとまりつつある。

普及促進部会

委員長 藤田 啓史



毎月部会を開催し、継続して普及に向けた打合せを行っています。

1月1日に発生した能登半島地震では、能登半島を中心に甚大な被害が発生しましたが、七尾市の免震病棟を持つ恵寿総合病院は、地域の拠点病院として医療活動を継続しています。改めて免震構造の耐震安全性と事業継続性の高さを証明したと言えます。一般の方にも分かり易くこの事実（免震構造の良さ）を伝えていかなければなりません。

普及の為の有効な手段として、普及促進部会の委員からの意見で多いのが「SNSを活用した情報発信」です。1月、2月の部会では、SNSを用いた有効なコンテンツは何かを議論しました。動画コンテンツを試作し、確認を始めています。

創立30周年記念・ 関東大震災100年委員会

委員長 古橋 剛



当協会は2023年6月に創立30周年を迎えた。これを機に各種の記念行事を企画することとした。創立30周年記念・関東大震災100年委員会のもとに、各種の行事を企画・運営する組織として5WG、7SWGを設けている。2023年度も終盤に入り、既に多数のイベントが盛況のうちに終了している。ここでは、まだ活動中のWG、SWGの活動内容を簡潔に紹介する。最新の情報は協会HP内の創立30周年記念サイト（<https://jssi30anv.com/>）を、また、終了した企画の情報は会誌の速報を参照していただきたい。

●記念誌編纂 WG

・記念誌 SWG

4月上旬の発行を目指して記念会史の編集、校正中である。会誌特集号は2024年10月号を予定している。

・アーカイブ SWG

協会発行の本、指針、シンポジウム資料などを電子化し、協会 HP で検索、閲覧できるようにする。電子ブックによる公開とする。絶版となっている「免震構造入門」なども公開予定である。記念事業終了後も協会の定常的な事業として継続していく予定である。

●国際 WG

世界中から免震構造に関心を持つ建築技術者や研究者が一堂に会し、免震構造の過去と現状と未来について議論する機会を提供することを目的とし、オンライン形式の国際シンポジウムを2024年3月8日14:00 JSTに開催予定である。

●広報 WG

・見学会 SWG

5回の記念見学会を企画した。第1回～第3回はいずれも好評のうちに終了した。第4回、2024年3月21日、東京1「最近の免震事例」、第5回、2024年5月22日、東京2「30年前の免震と木造免震」を予定している。

●可児長英氏 特別講演会

創立30周年記念事業のひとつとして、協会元専務理事の可児長英氏の特別講演会、「免震構造・協会とともに30年」が追加された。運営の担当は事務局である。2024年4月18日を予定している。3月から申し込みを開始する。

2023年度も大半が経過し、協会創立30周年の各種の記念行事も概ね半ば以上が終了した感がある。どれも盛況で価値ある企画となったと考えている。これもひとえに会員各位、委員各位、事務局の皆様の努力のおかげであり、委員長として御礼を申し上げますとともに、これから残りの企画の運営もよろしく願います。